※令和４年度以降入学生用

学校番号	3036

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	詳説　世界史（山川出版社）						
副教材等	『グローバルワイド最新世界史図表』（五訂版）（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・過去の営みが「現在」につながっていることを認識し、国際社会が直面する諸課題について主体的に考察し、未来を予測してみよう。
・グローバル化が進む現代において、現在自分が生きる国の歴史や在り方について必要な知識と理解を持つことにより、他国や異なる文化を理解し、尊重する姿勢を養うことができる。
・歴史は実証的な学問である。歴史は繰り返す　繰り返すから歴史である。

2　学習の到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。
〈知識及び技能〉近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
〈思考力・判断力・表現力等〉近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
〈学びに向かう力、人間性等〉近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識：古代から中世の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	古代から中世の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	古代から中世の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国際人としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	人類の発生から古代文明の形成	1.古代オリエント世界	(a) ・文明の特徴を理解し，人種・語族・民族といった概念を，関心をもって学ぼうとしている。 ・メソポタミアとエジプトを中心とした古代オリエント世界の推移と文明，シリア・パレスチナ地域の諸民族とイラン人の活動とその歴史的意義を理解し，基本的な知識を身につけている (b) ・人種や民族といった分類を，その概念形成の背景から客観的に判断し，文章にまとめる。 (c) ・古代において人類が経験した世界史上の重要事のひとつである国家の創出について，関心をもって学ぼうとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート
一学期	地中海世界	1.ギリシア世界 2.ローマ世界	(a) ・ギリシア文明の基盤となったポリス世界の特色，およびヘレニズム帝国の統治と文化に関する，二つのコラムを利用して基本的知識をさらに深めている。 ・ 「ローマ人」の理念，帝国化＝「ローマ化」の意味する内容，「ローマ帝国社会の変容」の意味など，コラムを活用して，基本的な知識をさらに深めている。 (b) ・教科書に掲載されているギリシア世界の地図，アテネ市街の写真，重装歩兵の図版，ペルシア戦争関係の地図，ヘレニズム帝国の地図と関連図版を適切に活用している。 (c) ・ローマ世界の発展と文化の特色，およびキリスト教の誕生から発展の意義について，関心をもって学習しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート
一学期	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	1.インド古代文明 2.東南アジアの諸文明 3.中国の古代文明	(a) ・バラモン教・仏教・ヒンドゥー教の特徴を把握し，コラム「仏教の展開」を活用して基本的な知識をさらに深めている。 ・東アジアの日本・朝鮮・ベトナムなどの国家形成に大きな影響を与えた中国の初期王朝と，のちの中華帝国の原型となった秦漢時代に関する基本的な知識を身につけている。 (b) ・インダス文明の特質，マウリヤ朝・クシャーナ朝の発展と宗教とのつながりを多角的に考察し，文章にまとめる。 ・北方ユーラシアの遊牧国家が血縁的まとまりをもつ集団，機動力のある	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート

※令和４年度以降入学生用

			集団の連合によって成り立っていることを考察し，文章にまとめる。 （c） ・古代東南アジアの国家形成を，インド洋や南シナ海を通じた交易活動と関連させながら学習しようとしている。 ・遊牧民と農耕民および遊牧国家と農耕国家との関わりを，関心をもって学習しようとしている。			
二学期	イスラーム世界の形成と発展	1.イスラーム世界の形成 2.イスラーム世界の発展	（a） ・アラブ人の征服活動，アッバース朝の国家体制，初期のイスラーム文化に関して，基本的な知識を身につけている。 ・トルコ系の人々を軸としたイスラーム世界の諸地域における発展に関して，基本的な知識を身につけている。 （b） ・ウマイヤ朝とアッバース朝の差異およびイスラーム世界の拡大について，多角的に考察し，文章にまとめる。・イスラーム世界の東方への拡大と西方におけるスルタン制・イクター制といった変容を，内陸アジアやヨーロッパの動きと関連付けて考察し，文章にまとめる。 （c） ・ムスリム商人が築いた海域・内陸のネットワークに留意して学習しようとしている。 ・イスラーム文化の内容と，他地域への影響について意欲的に学習しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート
二学期	ヨーロッパ世界の形成と発展	1.西ヨーロッパ世界の成立 2.東ヨーロッパ世界の成立 3.西ヨーロッパ世界の変容 4.西ヨーロッパ世界の中世文化	（a） ・東西ヨーロッパ世界の拡大に関する基本的な知識を身につけている。 ・14～15 世紀のヨーロッパにおける封建社会の動揺(危機)と再生に関する基本的な知識を身につけている。 （b） ・ヨーロッパの中世を特徴付ける，荘園制と封建社会の形成との関係，カトリック教会と世俗君主との関係を多角的に考察し，文章にまとめる。 ・14～15 世紀のヨーロッパにおける五つの危機(教会大分裂，領主制の危機，反体制的な宗教運動，オスマン朝の侵攻，社会秩序の危機)を多面的に考察し，文章にまとめる。 （c） ・ゲルマン諸国家とフランク王国の台頭，東ローマ帝国の地中海支配，ローマ=カトリックの発展について，関心をもって学習しようとしている。 ・百年戦争を通じて国王による中央集権化の試み，金印勅書による神聖ローマ帝国分立化の進展，イタリア都市の発展とルネサンスの開始について，関心をもって学習しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート
二学期	内陸アジア	1.トルコ化とイスラーム化の進展 2.東アジア諸地域の自立化 3.モンゴルの大帝国	（a） ・ギリシアやユーラシア各地からの要素を融合したイスラーム文化がそ	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシ

※令和４年度以降入学生用

			れらを発展させ，さらに各地に伝わり影響を与えたこと，またコラムを活用してイスラーム社会に関する基本的な知識をさらに深めている。 ・モンゴル人が築き上げたネットワークと，14 世紀以降の再編・解体がもたらした諸地域への影響に関して，基本的な知識を身につけている。 （b） ・イスラーム教の成立を，西アジアの情勢や社会的な背景と関連付けて考察し，文章にまとめる。 ・モンゴル帝国が内陸アジアの諸都市を，また元朝が海域ネットワークをも支配下においた意味を，社会経済的な視点から考察し，文章にまとめる。 （c） ・中国周辺諸国の変化，契丹や女真と宋の政治的・軍事的対立と交流，宋代の産業や文化の発展について関心をもって学習しようとしている。 ・ムスリム商人が築いた海域・内陸のネットワークに留意して学習しようとしている。			ート
二学期	アジア諸地域の繁栄	1.東アジア世界の動向 2.清朝の中国と諸地域 3.ムガル帝国	（a） ・明朝の発展と朝貢世界の形成に関し，二つのコラムを活用して，関連する基本的な知識をさらに深めている。・ムガル朝の統治システムと，イスラーム教徒とヒンドゥー教徒融合の試みに関して，基本的な知識を身につけている。 （b） ・ムガル朝のアクバル帝とアウラングゼーブ帝の宗教政策の違いと，イスラーム文化がインド地域に与えた影響を考察し，文章にまとめる。 ・清朝と隣接諸地域との関係の変化を，東南アジアの状況やヨーロッパ勢力の活動と関連付けて考察し，文章にまとめる。 （c） ・清朝の中国統治の特色と，チベット・琉球・日本・朝鮮といった隣接諸地域の動向について，関心をもって学習しようとしている ・「鎖国体制」前の日本の対外関係の実態を把握しようとしている。	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート
三学期	現代の世界 二つの世界大戦 冷戦と第三世界の独立	1.第一次世界大戦とロシア革命 2.世界恐慌とファシズム諸国 3.第二次世界大戦 4.米ソ両大国と平和共存 5. 第三世界の連携と試練 6.核戦争の恐怖から軍縮へ 7.冷戦構造のゆらぎ 8.世界経済の転換	（a） ・コラムを活用して，第一次世界大戦の歴史的意味に関して，基本的な知識を深めている。 ・世界恐慌の影響と欧米諸国の対応，ファシズム諸国の台頭やソ連邦の動向，日中戦争などに関して，二つのコラムを活用して，基本的な知識を深めている。 ・西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解している。 ・核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会が受けた衝撃を理解している。 ・1950 年代にアメリカの黒人差別へ	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート

※令和４年度以降入学生用

			の批判などが高まった背景を理解している。 ・核軍縮に対する米ソや国際社会の取り組みについて理解している。 （b） ・ヴェルサイユ体制下におけるアメリカ合衆国・イギリス・フランス・ドイツ・イタリアなどの状況と諸問題を多角的に考察・追究し，文章にまとめる。 ・東欧諸国の社会主義化を，ドイツとの緩衝地帯をつくりたいソ連の政策と結びつけて考察し，文章にまとめる。・ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察している。 ・核兵器開発競争の過熱化が国際連合の下で、原子力発電の開発の本格化につながったことを考察している。 ・1950 年代のアメリカ社会のあり方を軍産複合体から考察している。 している。 ・石油危機後に新自由主義が西側諸国で目指された理由を考察している。 ・アジアにおける開発独裁について、利点と問題点について考察している。 ・プラザ合意とバブル経済の関係について考察している。 （c） ・ロシア革命の進展からソ連邦の成立に至る過程を，関心をもって学習しようとしている。 ・米・ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造を，関心をもって学習しようとしている。 について追究しようとしている。 ・「プラハの春」から派生した「アラブの春」という言葉から、「プラハの春」のもつ歴史的意義を追究しようとしている。			
三学期	グローバル化する世界	1.冷戦の終結と国際情勢 2.ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3.開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 4.地域紛争の激化 5.国際社会のなかの日本	（a） ・ゴルバチョフによる新思考外交を契機として冷戦が終結したことを理解している。 ・ゴルバチョフによるソ連の社会主義体制の改革「ペレストロイカ」の取り組みを理解している。 ・地域統合や自由貿易圏の設立とともに、世界規模での貿易を促進するＷＴＯの役割を理解している。 ・55 年体制の崩壊の要因と、その結果として誕生した政権の特徴を理解している。 （b） ・共産党一党支配と連邦制がどのようにソ連邦の崩壊に結びついたのかを考察している。 ・南アフリカでアパルトヘイト政策が撤回され、マンデラ大統領が誕生した要因を考察し、表現している。 ・アフガニスタン戦争がそれまでの戦争とは異なる点を考察している。 （c） ・東欧革命による各国での新体制を	定期考査	定期考査	ノート提出 ワークシート

※令和４年度以降入学生用

			比較し、傾向を見出そうとしている。 ・チェルノブイリ原発事故の発生から、今日までの歩みをもとに事故の意味を追究しようとしている。 ・ユーゴスラヴィア紛争における国際社会の関わり方について追究しようとしている。 ・日本の国際貢献のあり方の変化に、経済面などの日本の国際社会における影響力の変化を見出そうとしている。			

※　表中の観点について

（a）知識・技能　（b）思考・判断・表現　（c）主体的に学習に取り組む態度